

令和2年度 第3回 瑞穂市老人福祉計画策定・推進委員会

- ・日時 令和2年12月18日（金）13：30～14：30
- ・会場 瑞穂市総合センター 2階 交流ルーム

審議の概要

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 議事
老人福祉計画素案について
- 4 その他

1 開会 地域福祉高齢課長 開会宣言

2 あいさつ 健康福祉部長

3 議事

所会長 皆様こんにちは。暖かい日が続いていましたが、寒波予報が出ています。実際に寒波が来ますと、急には体が追い付いていかず体調を崩される人が増えますが、委員の皆さまには、本日元気でご出席いただきありがとうございます。

それでは始めます。本日、傍聴の希望者はいますか。

事務局 本日、傍聴希望者はいません。

所会長 今回は、傍聴希望者が0人ということでした。

先程のあいさつにもございましたが、新型コロナウイルス感染症により大変な時期でございます。手際よく進めて参りますので、皆様のご協力をお願いいたします。

それでは議事に入ります。老人福祉計画素案について、事務局より説明願います。

(事務局より説明)

所会長 ただいま事務局より説明がありましたが、何かご意見やご質問、ご提案等がございましたらお願いします。

豊田委員 シルバー人材センターのお話があり「仕事を増やしてほしい」とのことでしたが、実際に今年は仕事が減っているのですか。

事務局 シルバー人材センターの仕事が減っているという情報は、入っておりません。買い物支援のサービスをシルバー人材センターで出来ないかという提案をしています。もし、それが叶えば、シルバー人材センターの就労拡大にも繋がりますし、買物困難者の支援にもなるため、事業としてやっていただけるようお願いしております。

豊田委員 ちょっとした困りごとのボランティア活動をしていますので、多少重なる部分があると思いました。11月と12月は年末の大掃除活動をやっているのですが、多くの利用をいただいています。アプローチをすれば、シルバー人材センターの利用に関しても、もっと増えるのではないかと思います。

所会長 需要と供給は、努力によって増えるということですね。

事務局 シルバー人材センターより山本委員がご出席してみえますので、ご意見をお願いします。

山本委員 シルバー人材センターの現状ですが、仕事は増えているのですが、会員が少ないため、センターでは対応しきれないという現状です。岐阜市や大垣市のような大きなまちは、それぞれ独自の事業として、学童保育、ゴミ出し、掃除等の事業をやっていますが、瑞穂市では、そのようなことまで対応できる会員数がいません。会員の報酬も国で決められており、勝手に上げるわけにもいきません。今現在、剪定、草刈りの事業を依頼されても、3ヶ月程お待ちいただいている状況です。一生懸命やっているのですが、会員不足で回りきれませんので、まず、会員を増やしていきたい。近年は、定年延長や再雇用で60歳を超えても現役で働けるので、シルバー人材センターに入られる会員が少ないのです。それをいかにして打開するかが、シルバー人材センターとしての課題です。委員の皆様より良いご意見がございましたら、よろしくお願いします。

- 豊田委員 私のところでも何とか業務を回しているのですが、担い手が増えません。ある意味、同じ悩みを持っています。もう少し人が増えてれば、我々も活動範囲を広げることができます。
- 坂之上委員 前回の策定委員会において、目標数値を入れてほしいとお願いをして、反映させていただいて嬉しいです。
40 ページのさわやか口腔検診の令和5年目標値が10%なのですが、数値が低すぎるのではないのでしょうか。
- 事務局 岐阜県後期高齢者医療広域連合のさわやか口腔検診の目標値が、5%以上となっています。瑞穂市の場合は現状値が8%であり、既に5%を越えているため、令和5年の目標値を10%に設定しております。
- 坂之上委員 分かりました。
自治会連合会からの質問ですが、各校区に地区社会福祉協議会を作るという話がありますが、牛牧地区以外は進んでいないと聞いています。地区社会福祉協議会設立の目安はありますか。
- 事務局 いつまでに設立するという目安は特にございません。牛牧地区が地区社会福祉協議会設立に向けて動き出しているというのは、住民の気運が高まってきたというのが第一にあります。他の地区についても、生活支援体制整備事業の協議会がありますが、地域での気運を高めたうえで、設立に向けて市役所・社会福祉協議会と連携を図りながら、設立に向けて支援をしていくという流れです。気運が高まらないのに組織だけ作っても、運営が成り立たないと思いますので、まずは気運を高めていくことから進めていきたいと思っています。
- 玉城委員 計画の記載内容が、具体的で良いと思いました。前回の振り返りや評価の時もそうですが、内容をひとつひとつ見ていくと、丁寧に事業が実施されており、それぞれの担当の方が、一生懸命取り組まれているようです。評価する時に、具体的に瑞穂市が取り組んでいる事業の実践事例を載せると、市民が理解しやすいのではないかと思います。
- 社会福祉協議会 玉城委員がおっしゃられたように、市民に分かりやすく評価することが大切だと思います。社会福祉協議会でも事業内容等が市民の皆様に分かりやすくなるように考えていきたいと思っています。

豊田委員 45 ページのボランティアセンターについてですが、個人登録数は現状値 148 人で令和 5 年が 143 人と減っています。団体登録数は現状値 91 で令和 5 年が 96 と増えています。団体登録人数は現状値 1,184 人から令和 5 年が 1,142 人と減っています。ボランティアの人数や担い手を増やしていかないといけないというところで、なぜ数字が下がっているのですか。

社会福祉協議会 45 ページのボランティアセンターの個人登録の数値の件ですが、現状値は令和 2 年の 11 月 1 日の数値です。平成 30 年度は 181 人でした。現状値 148 人から前年度 181 人をひいたところ-33 人となり-18%になりました。148 人から-18%で 121 人という数字が出ました。それを基に 5.9%の増加率で目標にして、令和 3 年、令和 4 年、令和 5 年と計算させていただき、最近は減りが大きかったのもので、その分を努力目標という形で、市民のボランティアにご協力をいただけるように、私共の努力として、5.9%ずつを増加率とさせていただいた数字です。

豊田委員 何か方程式のようなものがあるのですか。

社会福祉協議会 今回、このデータ以前のものも計算しました。平成 23 年度がピークで以降は 5.9%ずつ減ってきましたので、5.9%増の努力目標とさせていただきました。

豊田委員 その数値の出し方は、正しいのですか。基本的には、令和 5 年の数字は我々が今考えた段階でどうあるべきかなので、単に数字を掛けたからこの数字になったというのは、説得力に欠けます。その為に何をすべきかが明確にならなければ、下がっている数字に対して目標とは言えません。

所会長 それに関してひとつお尋ねします。今年度は、新型コロナのことがあったので、それに比べて減ったということは当然あるのですが、新型コロナ前の落ち方と、今年度の落ち方の差はどれくらいありますか。

社会福祉協議会 今年度は、121 人なのですが、年度末まで少し日が残っていますのでまだ登録があるかもしれません。

所会長 昨年度は、どれくらい登録がありましたか。

社会福祉協議会 令和元年度が 148 人、現状は 11 月 1 日で 121 人です。

所会長 平成 30 年度はどれくらいでしたか。

社会福祉協議会 平成 30 年 181 人、平成 29 年 183 人、平成 28 年度 207 人、最大は平成 23 年度 284 人でした。

所会長 それでは、新型コロナの影響で下がったということではなく、毎年下がってきているということですね。

社会福祉協議会 はい。ボランティアの方も高齢になられて、新規の方がなかなか入ってこないというのが、減ったというのが現状です。

所会長 このような流れを止めたいということで、5%という考えなのですね。

社会福祉協議会 そうです。

所会長 他にご意見はございませんか。他にないようですので、最後に中村副会長よりご意見をお願いします。

中村副会長 本日は、委員の皆様より忌憚のないご意見をありがとうございました。記載内容が着実に実践され、評価されれば良い計画になるだろうとのご意見もいただき、まさにその通りだと思っています。前回の計画では、高齢者が参加できるものは限定的なものになっていました。今回は、より地域密着にというキーワードの基、高齢者の様々な活躍の機会が盛り込まれており、社会参加に大変重点を置かれた計画になっています。

玉城委員のご意見にもありましたが、これを 3 年後評価する際に、ひとつひとつの事業を評価していくことは、別の事務事業評価など行政評価において行うこととして、この計画の評価としては、重点施策として挙げられている目標に関し、どのように社会参加率が上がり、高齢者の方々の生活と健康がどのようになっていったのかということを追跡していくと、それが計画の評価となっていくと思います。良い事例は確かに大事ですので、事例を集めながら最終的な数値と実践

事例をまとめていければと思います。

ボランティアの方が増えていかないということは、日本全国同じ課題を抱えています。ボランティアすることが健康によい、自分自身や家族の生活が豊かになるというメリットがある、ということは昔から分かっていたのですが、科学的根拠として証明されています。そのようなメリットを周知していきながら、人材募集をしていく努力が必要になってくると思います。

余談ですが、ボランティアを週に5回以上やっている方と月1回程度やっている方を比較したところ、週5回やっている人の方が、月1回程度やっている人と比べて、健康度が悪いという結果がでています。これは、義務的になってしまうことで少し負荷がかかってしまうからだと思います。「ちょっとしたボランティア」がキーワードということが、全国データの中から分かってきています。

新型コロナにより参加率や、ボランティアを提供する人たちは絶対に減ります。ですが、新型コロナだから仕方ないではなく、新型コロナだからこそどうしていくか、ということをも市民全体が考えているところが、瑞穂市の宝だと思っています。次年度以降、この計画を基に推進していければ、素晴らしい瑞穂市になっていくと思いますので、引き続きよろしくお祈いします。

所会長 多大な評価をいただきました。この計画に沿って進めていただければと思います。

それでは、以上で議題を終了とします。事務局にお返しします。

事務局 今後のスケジュールを確認させていただきます。1月7日から2月5日までパブリックコメントを実施します。パブリックコメントを反映させたものを3月上旬の策定委員会でお示しいたします。会議は新型コロナの影響により、書面表決という形で開催させていただく可能性もございますので、その際は、ご了承の程、よろしくお祈いします。

本日は、長時間にわたり貴重なご意見をありがとうございました。これをもちまして「第3回瑞穂市老人福祉計画策定・推進委員会」を閉会します。

以上